

JIS

排水用鑄鉄管

JIS G 5525 : 2000

(2005 確認)

平成 12 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって**JIS G 5525 : 1975**は改正され、この規格に置き換えられる。

なお、製品の安全性をより高く保証するために、この規格の一部の規定については、改正前の規格の規定値及び性能項目を継続し、採用している。

また、この規格票の様式は、**JIS Z 8301 : 1996** (規格票の様式) に従った。

JIS G 5525には、次に示す附属書がある。

附属書1 (規定) 排水用鋳鉄管用接合部品

附属書2 (規定) 異種管接続用の異形管

附属書3 (参考) 排水用鋳鉄管の接合方法

附属書4 (参考) 接合部の性能

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 34. 10. 1 改正：平成 12. 3. 20

官 報 公 示：平成12. 3. 21

原案作成協力者：社団法人 空気調和・衛生工学会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 鉄鋼部会 (部会長 木原 淳二)

この規格についての意見又は質問は、経済産業省 産業技術環境局標準課 産業基盤標準化推進室 [☎100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

排水用鑄鉄管

G 5525 : 2000

Cast-iron drainage pipes and fittings

序文 この規格は、1983年に第1版として発行された、ISO 6594, Cast iron drainage pipes and fittings—Spigot series が国際規格としてあるが、JISとISOでは、接合方式が全く異なっており、また、我が国では、地震が多いこと、生産設備の対応が整っていないことなどの事情によって、JISとISOとの整合化は、今回の改正では行わなかった。

1. 適用範囲 この規格は、自然流下式の汚水、雑排水、雨水及び通気の配管に使用する排水用鑄鉄管（以下、管という。）について規定する。

備考 この規格の対応国際規格は、次による。

ISO 6594 : 1983 Cast iron drainage pipes and fittings—Spigot series

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。

JIS B 0202 管用平行ねじ

JIS G 1201 鉄及び鋼の分析方法通則

JIS G 1214 鉄及び鋼—りん定量方法

JIS G 1215 鉄及び鋼—硫黄定量方法

JIS G 1253 鉄及び鋼—スパーク放電発光分光分析方法

JIS G 1256 鉄及び鋼—蛍光X線分析方法

JIS G 1257 鉄及び鋼—原子吸光分析方法

JIS G 5501 ねずみ鑄鉄品

JIS Z 2201 金属材料引張試験片

JIS Z 2241 金属材料引張試験方法

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次による。

- a) **直管** 配管の主な構成要素であるまっすぐな管で、接合のための受け口をもつもの。
- b) **異形管** 配管の接合、方向転換、集合、拡張、異種管との接続、末端の閉鎖などの目的に用いられる排水用鑄鉄管用の継手。
- c) **メカニカル形接合** 受け口部に管を差し込んで、ゴム輪を介して受け口と押し輪をボルト・ナットで締め付ける接合形式。
- d) **差込み形接合** 受け口部及び差し口部にシール性滑剤を塗布した後、管を差し込んで接合する接合形式。この接合形式の管は、立て管（上向き受け口）用に使用する。
- e) **圧壊試験** 試験片に圧縮荷重を負荷し、破壊したときの荷重によって強さを判定する試験。

4. 種類及び記号

4.1 接合形式による種類 管の種類及び記号は、表1による。接合形式別にメカニカル形1種管、メカニカル形2種管